

令和4年12月14日

さいたま市長 清水 勇人 様

さいたま市社会福祉審議会
児童福祉専門分科会
(地方版子ども・子育て会議)
会長 山中 冴子

さいたま市子ども・子育て支援事業計画「さいたま子ども・青少年
のびのび希望（ゆめ）プラン」令和3年度進捗状況について（具申）

令和4年度さいたま市社会福祉審議会児童福祉専門分科会（地方版子ども・
子育て会議）において、標記計画における令和3年度進捗状況及び評価につい
て審議し、本分科会の意見を別紙のとおり具申いたしますので、ご配慮くださ
い。

「第2期 さいたま子ども・青少年のびのび希望（ゆめ）プラン」

令和3年度進捗状況及び評価について

令和3年度の事業評価については、全144事業中、「A：達成」、「B：概ね達成」と評価した事業が、132事業（91.7%）となっており、ほとんどの事業が順調に進められています。

待機児童対策においては、令和4年4月時点の保育所等利用待機児童数は前年度の11人から0人となり、待機児童の解消に至るなど、これまでの保育所等整備の結果が見受けられます。一方で、放課後児童クラブの待機児童数は前年度より116人多い340人となっており、高まる市民ニーズに対応しきれていない面も見られます。放課後児童クラブの待機児童数の深刻さは数値に現れていますが、保育所や放課後児童クラブでは、目に見える数値だけでは把握しきれないニーズもあり、積極的にニーズを掘り起こしていく必要があると考えます。

また、コロナ禍ゆえ、支援が一層届きにくくなっている、これまで以上に厳しい状況下に置かれている人々がおり、児童はもとより家族全体への多角的な支援が求められているということを敏感に察知することが重要と言えます。支援をどう周知するのか、どのような工夫をして届けることができるのか、各事業の内容や質、これまでの事業評価の観点のままで良いのか、改めて考える必要に迫られていると考えます。

今後も、多様化する子ども・子育て支援に関するニーズに柔軟かつ速やかに対応するとともに、令和2年3月に策定した「第2期さいたま子ども・青少年のびのび希望（ゆめ）プラン」に沿った施策が着実に遂行されることを求めます。

<委員からの意見等>

- ・事業の周知について、市報や市ホームページの活用だけでなく、若い世代に向けてSNSを積極的に活用することを希望します。特にファミリーサポートセンター運営事業、子育て緊急サポートセンター運営事業、子育てヘルパー派遣事業について、子育て世帯への情報発信に取り組むことを希望します。
- ・放課後児童クラブについて、施設数や定員数の量的拡充だけでなく、職員確保や待遇改善、研修の充実化などの取組について、すすめていくことを希望します。また、現在の方策や令和4年度からの委託基準の見直しについて、しっかりとした検証の実施を希望します。